

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語／現代文A】

#### 1 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

定時制普通科第3学年を対象とする。男子7名、女子5名、計12名の少数クラスである。日頃から学習に対する意欲は低く、問いに対する自身の考えをまとめることを苦手としている。しかし、本文にとらわれない自由な発想に基づいた素朴な疑問などは発言するため、対話を中心としつつ身近な話題と関連付けた例を使うなどの授業展開を心掛けることで、作品を読み味わう面白さを体感させることは可能である。

#### 2 単元名

「登場人物の心理について考えよう。」（全16時間）  
教材：夏目漱石『こころ』（「現代文A」東京書籍）

#### 3 単元目標

- ・文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間心理について考察しようとする。  
(関心・意欲・態度)
- ・文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間心理について考察する。  
(読む能力)（「現代文A」指導事項ア）
- ・文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深めたりする。  
(知識・理解)（「現代文A」指導事項イ）

#### 4 本時の目標

物語の展開や人物の背景を分析し、人間心理を読み解く。

#### 5 授業展開

解決したい課題や問い
「私・K・お嬢さん」の3人のうち、もっとも幸せな人物は誰か？

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
それぞれの視点から本文を読み解く。		
「私」はKの自殺をどのように受け止めたでしょうか？	Kはなぜ自殺したのだろうか？	母親によって決定した結婚を、お嬢さんはどのように受け止めたでしょうか？
想定される活動	想定される活動	想定される活動
・Kの自殺の原因が自分の策略によるものだと考え、自責の念や罪悪感を抱えることを読み取る。	・Kの自殺は「私」の策略による裏切りが原因だと読み取る。 ・Kの自殺は自らの信条に反する思いを抱いたことによるものだと読み取る。	・Kとの打ち解けた関係に気づき、望まない結婚をすることになったと考える。 ・「私」に対する奥さんの発言やお嬢さんの様子から、好意を寄せていた相手との結婚を喜んでいると推測する。
*まず本文を根拠とした読み取りを条件とするため、第一段階としては新たな資料は配布しない。 *上述のような意見が出ることが予想されるため、第二段階として、人物関係図や明治期の結婚観・家父長制度に関する資料を配布。		

## 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

対話の方法（グループ形態、時間設定、留意事項など）

### 【個人の意見を明確にする】

自らの素直な意見として「3者」のうち誰が最も幸せだったか、理由を含めて記述させる。

\*この段階では主観に伴う意見でも構わないこととする。

### 【グループの意見をまとめる】

集団を3つのグループに分け、「私・K・お嬢さん」それぞれの視点（考えるための材料A・B・C）で教科書本文を読み込み、根拠となる表現を挙げて意見を説明できるように準備する。

\*読み取りが困難なグループには本文の範囲を指定する。

### 【各グループの意見を深化させる】

人物関係図や明治期の結婚観・家父長制度に関する資料を配布し、改めて各視点で考察し、グループの意見をまとめる。

### 【全体で発表】

各グループから一人を推薦し、クラス全体で発表し合う。

## 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

[100～200字程度のまとめ]

### ・「私」だと思う

自らのエゴで親友を死に追いやったかもしれないという罪悪感を抱えることにはなるが、直接「私」がKの死に関与したという証拠はどこにも無く、将来的に死を選ぶことになったとしても、本来の目的であった愛するお嬢さんとの結婚を果たすことが出来たという点においては幸せになれたから。(132字)

### ・「K」だと思う

Kに対する「私」の裏切りは自殺のきっかけになった可能性は否定できないが、自らの信条に反する「恋心」を抱いた時点からKは悩み続けているため、プライドの高いKは自らを律する機会を求めていたと考えられる。だから、死をもって「道」に生きる覚悟を实践したと考えればKが幸せになったと思う。(139字)

### ・「お嬢さん」だと思う

母子家庭であり、当時の時代背景から家長としての母の意見や結婚相手の選択に対して違和感は無かったと考えられる。また、奥さんの発言からもお嬢さんが「私」に対して好意を寄せていたと推測できるから「お嬢さん」が最も幸せになったと思う。(113字)

### ・「誰も」幸せではない

罪悪感や不安を抱えながらその後の人生を送ることになった「私」は、嫌悪感を抱いていた叔父と同じであると考えることになり結婚生活は幸福ではない。「K」は自らの信条に反した感情を抱いたことに悩むだけでなく、「私」の裏切りにもショックを受けて自殺を選び、人生の幸福はない。「お嬢さん」は真相を知らないまま上辺だけの結婚生活を送り、自らの至らなさが「私」の人間性の変化に結びついていると考えるようになるため、幸せな人生を送ることは出来ない。(210字)

## 育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 語句や表現の意味を理解し、意見の作成に利用することができる。</li><li>・ 明治期の結婚観や家父長制度など、時代背景を考慮して意見を作成できている。</li></ul>
②思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本文や資料を活用して、それぞれの視点で心情を考察している。</li><li>・ 自らの意見に根拠となる説明を加えながら表現することができる。</li></ul>
③主体性・学びに向かう力 協働性など	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本文や資料を活用して、自分の意見を表現することができる。</li><li>・ 自分の案や他者の案を適切に取捨選択し、グループとしての意見のまとめに関わっている。</li></ul>

## 授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん (男)	「お嬢さん」がもっとも幸せ 【理由】 なにも知らないのだから幸せではないかと…。	「お嬢さん」がもっとも幸せ 【理由】 挙止動作し、意識もしていたのだから。結婚して幸せというよりも、結婚する前までの生活がとても幸せだと思った。なにも知らないというより先生（私）からなにもおしえてもらえなかったのだから…。一番幸せで一番不幸だったりして。
Bさん (男)	「お嬢さん」がもっとも幸せ 【理由】 私とKの真実をしらないと思ったから。	「私」がもっとも幸せ 【理由】 やりたい放題やってきて最後にわ死んで逃げようとしているから。
Cさん (女)	「K？お嬢さん？」がもっとも幸せ 【理由】 Kもいろんな意味で幸せなんじゃないかって思うし、お嬢さんも、かってにこうなっただけだから幸せなんじゃないかと。むずかしすぎるし幸せな人いませんねコレ。	「K」がもっとも幸せ 【理由】 たぶん、いろんなツライ思いをしたと思うけど、自分の道をつらぬけて死ねたからなんだかなだ一番幸せに亡くなったと思う。私が一番ツライと思うし。

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	<ul style="list-style-type: none"> <li>難解な語句の知識や長文を読む指導の重要性を感じた。進度を遅くすることで1コマあたりの内容理解は容易になり、その時間での理解は容易になる。しかし一定の量を読み込むことができないため、意見が限定された範囲（記憶のごく新しい範囲）のみで構成されてしまう傾向が改善されなかった。</li> </ul>
考えるための材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の内容としては適切であったと思う。ただし、小説のその後の展開について教科書に採録された以上の説明を加えることで、「私」や「お嬢さん」の生活や心情に依拠して考えることも可能であったと思われる。</li> </ul>
対話と思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人→グループ→発表という流れは作れたものの、1コマで行うことはできなかった。</li> <li>教科書本文に意見の根拠を求めたため、意見の深化は望めなかった。</li> </ul>
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの意見を、本文を根拠にまとめることはできた。</li> <li>グループワークや発表では積極的な生徒が中心となり意見交換ができたが、一方で遠慮してしまい発言できない生徒も存在した。</li> </ul>